

佐伯市学力向上対策に係る取組について

佐伯市教育委員会
佐伯教育事務所

10月の校長・所長会議で「授業力向上の取組」として(1)付けたい資質・能力、評価規準を明確にした授業の実施、(2)「情報の取り出し」を意識した授業の実施、(3)必然性をもったペア・グループ活動の実施の3点を示したところですが、佐伯市学力向上対策に係る学校訪問や教育事務所訪問等での状況を踏まえて、以下のようにポイント・留意点をまとめました。

については、授業観察や互見授業の視点に組み入れる等、各小・中学校において、学校全体の意識付けに向けた手立てを講ずるのに活用願います。

(1) 付けたい資質・能力、評価規準を明確にした授業の実施**【3学期に向け共有したいポイント】**

- ◇付けたい資質・能力を育成することができたときの児童生徒の姿の想定
- ◇どの時間にどの観点の評価をどのようにするのかのイメージを明確にした単元の構想
- ◇付けたい資質・能力、評価規準を明確にすることがなぜ必要なのかを考えながらの実践への移行

<本時のねらい・評価規準：例>

◇ねらい ①学習内容 ②学習方法 ③付けたい資質・能力

①繰り上がりのない 23×3 の計算の仕方について、②図に表し、被乗数を位ごとに分解し、 20×3 と 3×3 に分け、和を求め考える活動を通して、③既習の九九を基にして計算することを理解することができる。

◇評価規準

23×3 の計算が乗法九九等の基本的な計算を基にして計算できることを理解している。【知識・技能】

<付けたい資質能力、評価規準を意識した1単位時間の授業構想>

【ねらいの書き方の例】

- *A 学習内容(～を、～について)
- B 学習活動(〇〇を通して、〇〇でまとめて、〇〇と比べて)
- C 育成を目指す資質・能力(△△できるようにする、△△に気付くようにする、△△を高める等)
- *A～Cの3つの要素を入れる。

「新大分スタンダードのすすめ」平成31年3月(第3版)大分県教育委員会 より

評価規準を意識した授業づくりのポイント**【授業を構想する際に意識してほしいことがら】**

- ①本時のA(学習内容)とC(育成を目指す資質・能力)を明確にする
- ②本時で目指す「付けたい力」が身に付いたときに現れる、「活動のゴールの姿」のイメージを明確にする
- ③本時で目指す「付けたい力」とB(学習活動)等を連動させる

【上記①～③を意識して授業を構想する際の留意点】

①では、
・「指導と評価の一体化」の巻末資料(評価規準例)等を参考にして、[知識・技能]、[思考・判断・表現]、[主体的に学習に取り組む態度]のいずれに該当するか確認する。

②では、
・「指導と評価の一体化」の巻末資料(評価規準例)等を参考にして、本時で目指す「付けたい力」が身に付いた時に現れる児童・生徒の具体的な姿を想定する。

③では、
・本時で目指す「付けたい力」が身に付いた児童・生徒の姿は、どのような思考・経験等を経て現れるものか想定し、「考えるための技法(比較する・分類する・関連付ける等)」等意識し、中心となる学習活動(言語活動)を設定する。
・その際、児童・生徒の予想されるつまずきに対する具体的な手立て等を検討し準備する。

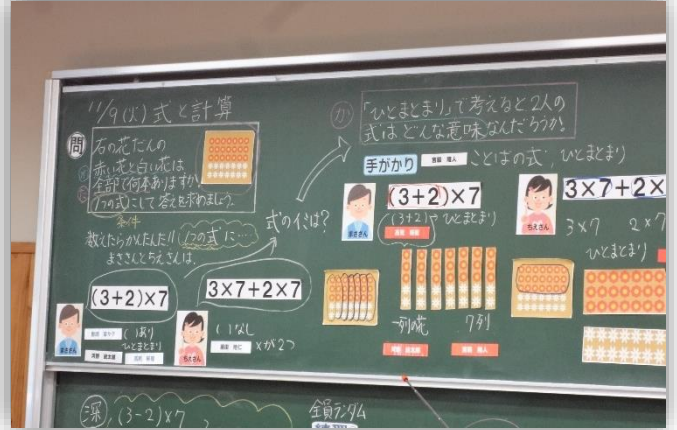
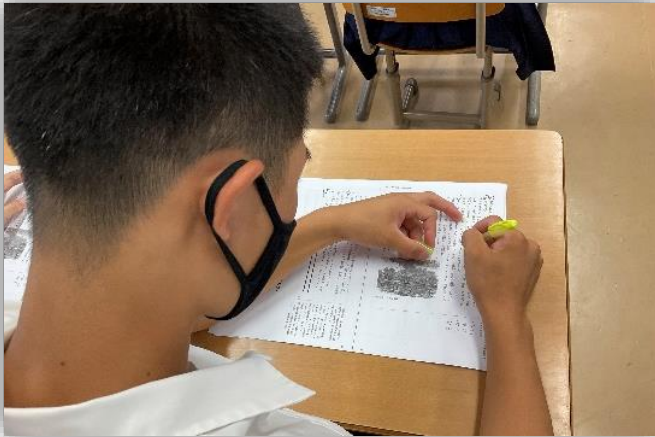
※「2020からの新しい授業づくりハンドブック【小・中学校】」令和2年6月 大分県教育委員会 P4の単元構想例も参考にしてください。

(2) 「情報の取り出し」を意識した授業の実施

【3学期に向け共有したいポイント】

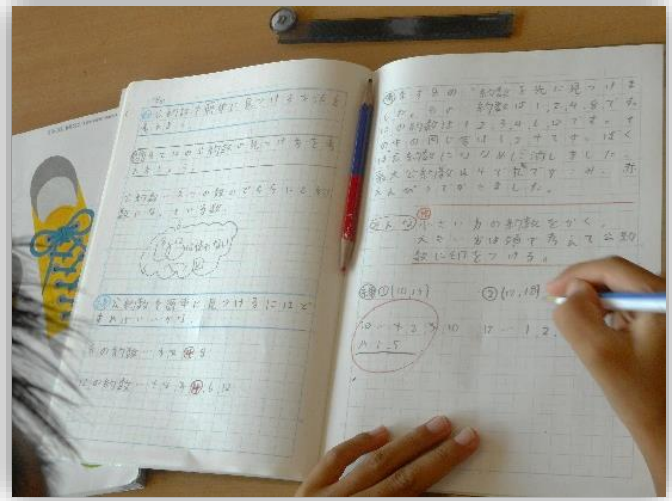
- ◇算数・数学の授業における「わかっていること」と「たずねられていること」に線を引く等の活動
- ◇国語・社会の授業における視点・目的を明確にした上で、線を引きながら文章を読ませる等の活動
- ◇数多くの情報の中からの課題解決に必要なとなる情報の選び出しと思考・判断・表現へのつなぎ

<学校訪問時に見られた具体的取組>



長い文章を目的や視点に沿って読み進めています。マーカーを使ったり、印を付けたり、線で結んだり、情報を取り出したり、関連付けたりするための工夫が見られました。

算数の「わかっていること」「たずねられていること」のチェックの跡が板書、児童のノートに残っていました。その後、条件に沿って立式し、課題につないでいました。



国語の教科書教材において、児童一人一人が読み取ったことや着目したことを全文掲示に位置付けていました。この段階で付けた「読むこと」の力が並行読書教材に適用されます。

課題解決の手がかりを求めて前時までにとめたノートをめくり、解決に向かう子どもの姿が見られました。学びの足跡が整理され、次に生かされるノート指導がされていました。



課題解決に向かうときに、既習内容の教室掲示から解決に必要な情報を取り出していました。既習事項の整理が子どもの思考の助けにつながっていました。

前時の板書を電子黒板に映し出し、既習事項を振り返り、思考の助けにする様子が見られました。子どもたちが解決に向けた見通しをもてるよう工夫されていました。

<学校訪問時に聞かれた工夫の様子>

- ・ 常時ノート指導や教室掲示に力を入れているため、そこからの情報の取り出しができています。(小・算数)
- ・ ①問題の中から必要な情報を取り出す②「わかっていること」「たずねられていること」のチェック③単元を貫く学習経過を見ながらの情報の取り出しの3点を想定した。(小・算数)
- ・ 前時の既習事項から情報を取り出し、自力解決できることを意識した。(小・算数)
- ・ 情報の取り出しについては、これまで、ポイントを示し、資料を読み取る活動を組み込んでいる。(中・社会)
- ・ 全員がどの情報を見れば問題を解決できるかを考えることが大切であると考え、教科書に線を引かせたり、印を付けさせたりすることを進めた。(中・数学)

<学校訪問時に助言した留意点>

- ・ 算数・数学で、「わかっていること」と「たずねられていること」をチェックする意味は、長い問題文の読解につなぐこと、必要な情報を整理し、式につなぐことにある。学習の見通しをもって情報を取り出し整理する力を付けること。
- ・ 前時のノートや掲示物を見ている児童生徒の姿があり、自ら情報を収集している様子が見て取れた。既習事項を情報源とした必要な情報の取り出しも意識し、教室掲示やノート指導、ICT活用等も意識すること。

（3）必然性をもったペア・グループ活動の実施

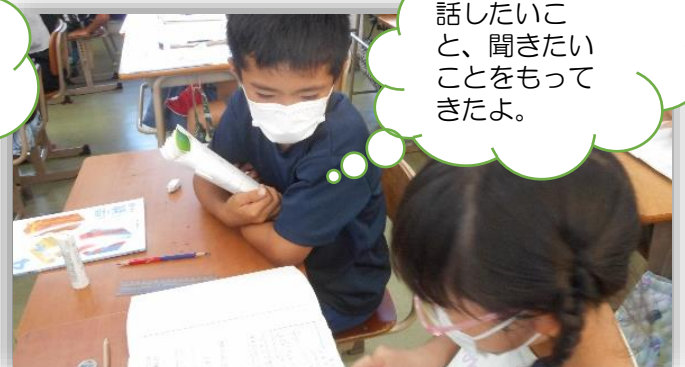
【3学期に向け共有したいポイント】

- ◇ねらいの達成に向け、どのようなペア・グループ活動を行うかといった「具体的な児童生徒の姿の想定」
- ◇どこでペア・グループ活動を行うかといった「考えを交流する場面の想定」
- ◇必然性をもたせるための基本的な流れ「個（考えをもち交流に向かう）→ペア・グループ（考えを交流する）→個（考えを再構成する）」の意識
- ◇ペア・グループ活動に向かう状況づくり（活動の目的の共有や教師の問いかけ等）

<学校訪問時に見られた具体的取組>



自分の考えはもてたけど…。
〇〇さんに話してみようかな。



話したいこと、聞きたいことをもってきたよ。

自分に向き合い、個で考えをもっています。ここで、「解決までもう一歩」「友だちと話すことで解決しそう」といった思いをもたせるための机間指導がされていました。

「どこを友だちに聞いてみるかな」「どこを友だちに伝えるかな」「発見したことは何？」といった問いかけ、声かけで、それに続く活動の目的・視点の共有が図られていました。



みんなで話し合ったことがうまく伝わるかな…。



それぞれにいいところがあるよね。まとめるには…。

考えたことや道筋を学級全体に共有することを目的に、ペア・グループ活動に必然性をもたせる取組がされていました。「どのような要素を取り入れて説明すれば伝わるか」という視点も大切になります。

「グループのみんなが納得する・わかる」「グループのみんなで作る」システムを工夫している取組も見られました。「お客さん」をつくらぬ司会の仕方や聞き方等の指導も大切になります。

<学校訪問時に聞かれた工夫の様子>

- ・小学校1年生にどんなペア・グループ活動がよいのかを議論した。今日の授業では、「立てた式を友だちに言う」「ブロック操作をしてみせる」という活動を仕組んだ。（小・算数）
- ・説明する力をもっている児童とペア活動をさせ、苦手な児童も説明できるよう学習を仕組んだ。理解に課題がある児童にはヒントカード等で支援した。（小・算数）
- ・まとめの一つ前の段階で、自分の考えを出し意見交流をする中で、もち寄った意見から、それぞれの生徒の視点に気付いていけばよいという想定をして実践した。（中・社会）
- ・考えがまとまった時やいくつか出た時に、自由に交流する形をとった。（中・数学）

<学校訪問時に助言した留意点>

- ・必然性のあるペア・グループ活動については、考えの違いや一人では解決しづらい状況を明らかにして、児童生徒に解決したい気持ちをもたせ、活動の目的や視点等を共有して行うこと。
- ・前時のノート、教室掲示、資料等、様々な情報から必要なものを取り出したり、情報を比較したりする活動が読解、ペア・グループ活動での説明につながる。授業の中に適切に位置付け、実践を積み重ねていくこと。
- ・ペア・グループ活動については、どの時間に組み込むか等、単元を構成する中で、目的を明確にして取り組んでいくこと。